

令和4年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計		事業主体	17100000	健康こども 健康課
大事業	61	6つのまちづくり宣言	款項目	04	衛生費	01
		保健衛生費	03	健康増進費		
		目指す姿	政策体系に基づかないその他の事業	K P I	-	目標値
中事業	01	主要な取り組み				-
小事業	11	健診事業	目標年度	令和6年度		

インプット	事業実施の背景にある課題	がん及び生活習慣病の早期発見、早期治療を図り、がんによる死亡者を減少させ、生活習慣病の重症化予防を図る必要がある。各種検診受診率の向上のために、効果的な案内通知、受診動奨を行う必要がある。				
	事業目的	(1)対象 成人健診対象者 (2)目的 健診受診率の向上による生活習慣病の予防・健康の保持増進				
	事業概要	成人健診にかかる申込調査、健診票の送付・結果通知などの事務を行う。				
	事業費(千円)	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	9,561	10,600	10,475	6,584	
	決算額	8,678	8,954	7,656		
	年間の事業に要する時間(正職員/正職員以外)	403 /		3,120		

アウトプット	活動指標(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
	成人健診対象者の申し込み率(%) [C票発送実人数(定期)/B票発送実人数](申込制でない健診も含む)	目標値	51	30	32		
	実績値	29	28.1	24.1			

アウトカム	K P I (単位)		R02	R03	R04	R05	R06
	成人健診受診率(%) [全健診 受診者数/B票対象者数]	目標値	10	10	10.5	10.5	10.5
	実績値	8.6	9.7	9.6			

実績	実績	成人健診対象者(実) 41,960人 申込書による申込案内者 32,394人 申込者数 5,981人 申込者数 18.5% 他、申込によらない健診票通知者あり。 W E B 申込案内者 8,588人 申込者数 800人 申込率 9.3%
	効果	健診(対象者)全員に、個別で健診に関する案内通知を行い、受診動奨を行った。 40歳以上の者には申込調査票の送付・返信による申込とし、30歳以下の者については、W E B による申込方法とすることで、市民の利便性及び、業務の効率化を図った。

評価分析	活動指標分析 目標値の達成・未達成要因	20～30歳代の歯周病検診、30代健診について、前年度の全員への健診票発送から申込制にしたことで、全体の申込率は低下した。申込率向上につながる通知内容、受診動奨方法について、改善が必要。 受診率を上げるための活動指標とするため、R5年度から活動指標を受診動奨実施回数に変更する。
	K P I 分析 目標値の達成・未達成要因	令和2年度に新型コロナウイルス感染症の影響により受診率が低下して以降、受診率がそれ以前レベルにまで回復していない。啓発、受診動奨の機会、手段を増やすよう、検討が必要。
	実績からR05年度の事業の方向性	W E B 申込の拡大に向け、システム改修等の準備を行う。効果的で効率的な受診動奨ができるよう、通知文書の見直しや動奨手段の検討を行う。

令和4年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計		事業主体	17100000	健康こども 健康課			
大事業	61	6つのまちづくり宣言	款項目	04	衛生費	01	保健衛生費	03	健康増進費
		目指す姿	政策体系に基づかないその他の事業		K P I	-	目標値	-	
中事業	01	主要な取り組み							
小事業	19	歯科検診事業	目標年度	令和6年度					

インプット	事業実施の背景にある課題	歯周病は、成人期の歯の喪失の主な要因であるだけでなく、糖尿病や循環器疾患等の生活習慣病のリスク要因となるほか、妊産婦においては低出生児出産の要因となる。また、高齢期においては、歯周病予防、口腔機能の維持向上が全身の健康維持においても重要となる。そのため、定期的な歯科健診の受診ができるよう、普及啓発が必要である。				
	事業目的	(1)対象 ・歯周病検診 20・25・30・35・40・45・50・55・60・65・70歳の市民 ・訪問口腔健診 要介護3以上で在宅で生活する後期高齢者医療制度被保険者 (2)目的 口腔保健への意識を高め、適切なケア・治療、定期的な歯科受診につなげ、医療費の削減を図る。 歯の健康を通し全身の健康および高齢期のQOLの維持、向上を図る。 ・歯周病の早期発見、早期治療と知識の普及を図る ・口腔機能の低下及び口腔内の疾患等の予防を図る。				
	事業概要	歯と口腔に関する健診を実施し、歯と口腔に関する疾患の早期発見、口腔保健への意識向上、適切なケア・治療、定期的な歯科受診につなげるもの。 ・歯周病検診：歯科医院での健診 ・訪問口腔健診：家庭訪問による健診				
	事業費(千円)	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	4,020	2,899	2,679	2,679	
	決算額	2,412	2,222	2,129		
	年間の事業に要する時間(正職員/正職員以外)	101 /		179		

アウトプット	活動指標(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
	歯周病検診受診者数(人)	目標値	720	730	740	750	750
		実績値	528	493	461		

アウトカム	K P I(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
	過去1年間に歯科検診を受けた者の割合(%) [歯周病検診問診票]	目標値	42	45	47	50	50
		実績値	46	44.1	51		

実績	実績	歯周病検診 受診者数 461人 訪問口腔健診 受診者数 1人
	効果	歯周病検診を受診し、歯科医師等から結果説明・保健指導を受けることにより、その後の定期的な健診受診や歯のセルフケアの継続へとつなげることができた。

評価分析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	20～30歳代の対象者について、健診票の全員配付を申込制に変更したことから20～30代の受診者数がやや減少した。
	K P I分析 目標値の達成 ・未達成要因	過去1年間に歯科検診を受けた者の割合が、前年度から約6%増加した。これまでの啓発の効果と捉え、今後も継続して普及啓発を進めていく。
	実績からR05年度の事業の方向性	その他の健診、保健事業の場や、歯科医療機関において、歯科健診の受診勧奨を継続する。

令和4年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計		事業主体	17100000	健康こども 健康課			
大事業	61	6つのまちづくり宣言	款項目	04	衛生費	01	保健衛生費	03	健康増進費
		目指す姿	政策体系に基づかないその他の事業	KPI	-		目標値	-	
中事業	01	主要な取り組み							
小事業	20	がん検診事業	目標年度	令和6年度					

インプット	事業実施の背景にある課題	がんは、40～80歳代の死因の第1位である。がんを早期に発見し、がんで死亡する者を減少させるために、がん検診について正しい知識を普及させ、がん検診及び精密検査の受診率を高める必要がある。				
	事業目的	(1)対象 40歳以上の市民 (2)目的 胃がん・肺がん・大腸がんの早期発見・早期治療により、がんによる死亡の減少、医療費の減少を図る。				
	事業概要	がん検診（胃がん、肺がん、大腸がん）を実施し、がんの早期発見・早期治療につなげるもの。 検診受診勧奨、精密検査受診勧奨を実施し、受診率の向上を図る。 検診バスによる集団検診の他、75歳以上に対しては、医療機関での個別検診を実施する。				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	33,301	34,153	33,272	31,328	
決算額	26,401	26,932	27,792			
年間の事業に要する時間（正職員/正職員以外）	703 / 20					

アウトプット	活動指標（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	がん検診（胃・肺・大腸）受診率（%）[受診者/人口]	目標値	12	10	11	
	実績値	8.5	8.8	8.7		

アウトカム	KPI（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	「結腸・移行部・直腸の悪性新生物」の疾患別医療費・入院国保（点）[KDB疾患別医療費分析（中分類）] 減少	目標値	4675000	4674000	4674000	
	実績値	1818125	1451434	1443391		

実績	実績	受診者数 胃がん 1,875人 大腸がん 3,787人 肺がん 2,794人
	効果	がん検診の受診により、がんの早期発見・治療につながった。

評価分析	活動指標分析 目標値の達成・未達成要因	令和2年度に新型コロナウイルス感染症の影響により受診者数が減少して以降、受診者数が回復していない。 事業の成果をより正確に測るために令和5年度から、活動指標・KPIを変更する。 活動指標 受診勧奨回数 KPI がん検診（胃・肺・大腸）受診率
	KPI分析 目標値の達成・未達成要因	目標は達成しているが、医療費には年度によって大きな変動があるため、事業による成果とは言い難く、長期的・継続的に確認・評価する必要がある。 事業の成果をより正確に測るために令和5年度から、活動指標・KPIを変更する。 活動指標 受診勧奨回数 KPI がん検診（胃・肺・大腸）受診率
	実績からR05年度の事業の方向性	ホームページ、すぐメールの内容を見直し、受診勧奨を行う。 他事業において、リーフレットを配付して、勧奨する。 未申込者への郵送による再勧奨について、ナッジ理論をより活用した内容に見直しを実施する。 県により「がん検診の受診勧奨策等実行支援事業」が計画されており、研修に参加して、受診勧奨の効果的な手法を学ぶ。

令和4年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計		事業主体	17100000	健康こども 健康課			
大事業	61	6つのまちづくり宣言	款項目	04	衛生費	01	保健衛生費	03	健康増進費
		目指す姿	政策体系に基づかないその他の事業		KPI	-	目標値	-	
中事業	01	主要な取り組み							
小事業	21	婦人検診事業	目標年度	令和6年度					

インプット	事業実施の背景にある課題	がんは、死因別の死亡数の第一位である。乳がん・子宮頸がんは、女性のがんの中で罹患する人が多く、特に子宮頸がんは30～40歳代の女性で増加傾向にある。検診を受けることで、早期発見、早期治療につなげ、がんによる死亡者を減少させる必要がある。				
	事業目的	(1)対象 20歳以上の女性 (2)目的 乳がん・子宮頸がん・骨粗しょう症の早期発見・早期治療により、がん死亡率の減少及び骨粗しょう症の予防を図り、医療費を削減する。				
	事業概要	乳がん検診・子宮頸がん検診・骨粗しょう症検診を実施するもの。検診バスによる集団検診及び医療機関での個別検診を実施する。検診受診勧奨、精密検査受診勧奨を行い、疾患の早期発見・早期治療につなげる。				
	事業費(千円)	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	19,766	19,986	19,149	19,454	
	決算額	15,335	17,039	16,371		
	年間の事業に要する時間(正職員/正職員以外)	602 /		20		

アウトプット	活動指標(単位)	R02	R03	R04	R05	R06	
	乳がん・子宮頸がん精密検査受診率(%)	目標値	100	100	100		
		実績値	94.9	95.3	94.3		

アウトカム	KPI(単位)	R02	R03	R04	R05	R06	
	「子宮の悪性新生物」の疾患別医療費・入院国保(保険点数)[KDB疾患別医療費分析(中分類)]減少	目標値	1200000	1100000	1100000		
		実績値	581894	3337746	702318		

実績	実績	受診者数 乳がん検診 1,284人 子宮頸がん検診 1,215人 骨粗しょう症検診 330人
	効果	子宮頸がん検診、乳がん検診の受診により、がんの早期発見、治療につながった。 骨粗しょう症検診を受診し保健指導を受けることで、早期治療、生活改善へとつながった。

評価分析	活動指標分析 目標値の達成・未達成要因	事業の成果をより正確に測るために令和5年度から、活動指標・KPIを変更する。 活動指標 受診勧奨回数 KPI 乳がん・子宮頸がん精密検査受診率
	KPI分析 目標値の達成・未達成要因	目標は達成しているが、医療費には年度によって大きな変動があるため、事業による成果とは言い難く、長期的・継続的に確認・評価する必要がある。 事業の成果をより正確に測るために令和5年度から、活動指標・KPIを変更する。 活動指標 受診勧奨回数 KPI 乳がん・子宮頸がん精密検査受診率
	実績からR05年度の事業の方向性	受診率向上のための受診勧奨方法、通知内容の見直しを検討する。精密検査受診率を100%とするため、タイムリーに複数回の精密検査受診勧奨を実施する。

令和4年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計		事業主体	17100000	健康こども 健康課
大事業	61	6つのまちづくり宣言	款項目	04	衛生費	01
		目指す姿	保健衛生費			
中事業	01	主要な取り組み	K P I	-		目標値
小事業	24	かかりつけ医健診事業	目標年度	令和6年度		

インプット	事業実施の背景にある課題	結核は毎年市内で10人程度の新規登録者があり、検診を実施することで早期発見にし、感染拡大をさせないようにする必要がある。 生活習慣病は、年齢が上がるにつれて、その発症者が増加するため、若い時期から、健康状態を把握し、生活改善をすることで、発症を防ぐ必要がある。				
	事業目的	(1)対象 30歳以上の市民 (2)目的 疾患の早期発見・早期治療・生活改善につなげ、生活習慣病の発症・重症化予防、健康寿命の延伸、医療費の削減を図る。				
	事業概要	医療機関において、各種健診を実施し、疾患の早期発見、早期治療、生活改善につなげるもの。 ○検診の種類 ・肝炎ウイルス検診、前立腺がん検診、結核検診、30代健診、特定健診等に準じた健診				
	事業費(千円)	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額 決算額	11,323 8,209	10,584 6,487	9,959 5,608	8,083	
年間の事業に要する時間(正職員/正職員以外)	1,213 / 100					

アウトプット	活動指標(単位)	R02	R03	R04	R05	R06	
	結核検診・肝炎ウイルス検診・前立腺がん検診受診者数(人)	目標値	2250	2000	2000	1600	1700
		実績値	1481	1438	1441		

アウトカム	K P I(単位)	R02	R03	R04	R05	R06	
	新規結核患者登録数(人) [保健所速報値] 維持・減少	目標値	10	10	10	10	10
		実績値	11	3	10		

実績	実績	受診者数 ・結核検診 506人 ・肝炎ウイルス検診 92人 ・前立腺がん検診 843人 ・30代健診 194人
	効果	検診の実施により、結核、前立腺がん、肝炎ウイルス感染の早期発見ができた。 30代健診の実施により、若い時期からの健康意識の向上、定期的な健診受診の習慣化につながった。

評価分析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	令和4年度から30代健診を全員への健診票送付から、申込制へと変更したため、受診者数が減少した。 R5年度からの目標値を実現可能な数に変更した。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	目標は達成した。今後も継続的に、事業を実施し、疾患の早期発見、感染拡大を防止する。
	実績からR05年度の事業の方向性	30代健診について、他に受診機会がない人が健診受診により自身の健康状態を把握できるよう、乳幼児健診等の機会を用いて受診勧奨を実施する。

令和4年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計		事業主体	17100000	健康こども 健康課			
大事業	61	6つのまちづくり宣言	款項目	04	衛生費	01	保健衛生費	01	保健衛生総務費
		目指す姿	K P I		-	目標値	-		
中事業	01	主要な取り組み	政策体系に基づかないその他の事業						
小事業	25	病院群輪番制病院補助金	目標年度	令和6年度					

イン プ ット	事業実施の背景にある課題	休日に治療を必要とする救急患者の医療を確保するため、地域内の救急医療施設である病院に対し、救急診療業務を委託することは必要不可欠である。地域住民に対して第二次救急医療体制の確立強化を図らなければ、一刻を争う事態の患者が受け入れ困難となり、医療崩壊に繋がってしまう。				
	事業目的	<p>(1)対象(誰、何を対象にしていますか) 可茂地域の7病院(中部国際医療センター・太田病院・可児とうのう病院・藤掛病院・東可児病院・白川病院・桃井病院)</p> <p>(2)目的(事業を行う事で、解決すべき課題がどのように改善されるのか) 管内の救急医療機関へ補助することで、輪番制方式で日曜日、祝日及び年末年始の昼間における救急診療体制を確保し、救急医療を維持することができ、住民が安心して暮らせる環境が提供できる。</p>				
	事業概要	<p>日曜、祝日及び年末年始の昼間における救急診療体制を確保するため、可茂地域の7病院に対し運営補助を行い、輪番制で第2次救急診療業務に当たってもらう。</p> <p>可茂管内10市町村で、均等割及び人口割により、運営補助を行う。</p> <p>美濃加茂市と可児市が3年交代で事務局を担い、事務局が管内を取りまとめ補助金として交付する。(R2-4は美濃加茂市、R5-7年度は可児市)</p>				
	事業費(千円)	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	27,115	17,235	27,115	1,512	
	決算額	14,106	5,115	26,394		
	年間の事業に要する時間(正職員/正職員以外)	281 /		105		

アウト プ ット	活動指標(単位)	R02	R03	R04	R05	R06
	設備整備件数(件)	目標値	1	1	1	1
		実績値	1	1	1	

アウト カ ム	K P I (単位)	R02	R03	R04	R05	R06
	受け入れ患者数(人)	目標値	2100	2100	2100	2100
		実績値	1100	1087	1792	

実 績	実績	可茂地域7病院への運営補助 上記のうち1病院への設備整備補助 今年度は太田病院に対して補助事業実施 受け入れ患者数 1792人
	効果	地域内の病院群が、共同連帯して輪番制方式により、休日の診療体制を整えているため、消防施設からの直接搬送患者及び初期救急医療施設からの転送患者を受け入れることが可能となっている。

評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	診療機能が強化され、日曜、祝日及び年末年始の昼間における救急医療体制の充実が図られる。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	昨年度に比べ達成度が約35%増加したものの、目標値の達成とはならなかった。しかし、コロナ禍では受け入れ患者数が急激に減少していたものの、落ち着きを取り戻しつつある今年度は患者数が増加し、今後は増加傾向となる見込み。引き続き、救急医療体制の確立強化を図り、受け入れ困難とならない体制を整備していく必要がある。
	実績からR05年度の事業の方向性	令和5年度より3年間は可児市が事務局を務めるが、引き続き日曜、祝日及び年末年始の昼間における救急診療体制を確保するため、輪番制による2次救急診療業務に当たってもらい、かつ必要な設備整備の補助について、国及び県とともに実施していく。

令和4年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計		事業主体	17100000	健康こども 健康課			
大事業	61	6つのまちづくり宣言	款項目	04	衛生費	01	保健衛生費	01	保健衛生総務費
		目指す姿	K P I		-	目標値	-		
中事業	01	主要な取り組み	政策体系に基づかないその他の事業						
小事業	26	公的病院等補助事業	目標年度	令和6年度					

インプット	事業実施の背景にある課題	救急医療体制の維持・設備の充実、地域住民の健康増進及び福祉の向上を図るためには必要不可欠となる。救急患者が増加傾向にあることから、行政として財政的支援を行わなければ、受け入れ困難となり医療崩壊に繋がりがかねない。				
	事業目的	(1) 対象(誰、何を対象にしていますか) 市内に所在する公的病院等 (2) 目的(事業を行う事で、解決すべき課題がどのように改善されるのか) 救急医療体制の維持・設備の充実、地域住民の健康増進及び福祉の向上が図られる				
	事業概要	市内に所在する公的病院等が行う救急医療に要する経費の一部を補助し、救急医療体制の充実を図る。関係市町村で、利用者数により補助を行う。				
	事業費(千円)	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	46,520	46,005	47,399	45,509	
	決算額	46,520	46,005	47,399		
	年間の事業に要する時間(正職員/正職員以外)	65 / 26				

アウトプット	活動指標(単位)	R02	R03	R04	R05	R06
	補助金交付率	目標値	100	100	100	100
		実績値	100	100	100	

アウトカム	K P I (単位)	R02	R03	R04	R05	R06
	受入れ救急患者数(人)	目標値	17500	17500	17500	17500
		実績値	9734	12081	14797	

実績	実績	社会医療法人の運営に対する加茂郡7町村との協調補助 救急受け入れ患者数 14,797人(内訳:救急車5,574人、救急医療用ヘリコプター27人、救急walk-in9,196人)
	効果	市内に所在する公的病院が行う救急医療に要する経費の一部を補助することにより、良質かつ適切な医療を効果的に提供する救急医療体制を確保し、市民の健康増進と福祉の向上が図られる。

評価分析	活動指標分析 目標値の達成・未達成要因	交付税基準額を、可茂地区市町村、その他(可茂管外)の利用者数で按分して算出された負担金額を補助金として交付
	K P I 分析 目標値の達成・未達成要因	受入れ救急患者数は、前年に比べ20%増加した。令和2年度はコロナ禍の受診控え等も影響し、9,734人まで減少したものの、それ以降受け入れ患者が増加傾向となっている。一時期顕著であった受診控えが緩やかになり、増加の一途をたどる現状を踏まえると、救急医療の負担軽減と医療体制確保のため、引き続き本事業により継続した加茂圏域の医療体制の維持が必要と考えている。
	実績からR05年度の事業の方向性	救急医療体制の維持・設備の充実、地域住民の健康増進及び福祉の向上を図るべく、継続した補助を行っていく。

令和4年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計	事業主体	17100000	健康こども 健康課	
大事業	61	6つのまちづくり宣言	款項目	04	衛生費	
		目指す姿	01	保健衛生費	01	保健衛生総務費
中事業	01	主要な取り組み	K P I	-	目標値	-
小事業	28	休日急患診療事業（定住）	目標年度	令和6年度		

イン プ ット	事業実施の背景にある課題	住民が安心して暮らせる環境には、充実した医療体制が必要であるが、日曜・祝日及び年末年始の日中の救急患者が救急告示病院に集中し、重症患者の受け入れが難しい状況になりつつあり、患者の救急度に応じた医療体制が圏域内で確保することが求められている。現在は、日曜・祝日及び年末年始の日中の急病に対応できる医療体制を強化し、休日に基幹病院に患者が集中することのないよう、診療所の医師に協力いただき、当番制で休日診療を行っている。医療資源に限られた中で、休日等に医療機関を利用する住民が増加している。二次救急を行う救急告示病院への負担（救急利用者の増加、医療資源の減少）が増えている。				
	事業目的	<p>(1) 対象（誰、何を対象にしていますか） 休日等における急病患者</p> <p>(2) 目的（事業を行う事で、解決すべき課題がどのように改善されるのか） 休日に救急告示病院に患者が集中することのないよう、診療所の医師に協力いただき、当番制で休日診療を行うことで、地域住民が安心して受診できるよう、診療体制を整えることができる</p>				
	事業概要	加茂医師会との連携のもと、圏域内の休日急患診療体制を強化し、日曜・祝日及び年末年始の医療体制を整える。休日に救急告示病院に患者が集中することのないよう、一次救急として診療所の医師に協力いただき、当番制で休日診療を行う。				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	4,494	4,554	4,443	4,440	
	決算額	4,494	4,483	4,305		
	年間の事業に要する時間（正職員/正職員以外）	136 /		104		

アウト プ ット	活動指標（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	周知回数(回)	目標値	60	60	60	60
		実績値	60	60		

アウト カ ム	K P I（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	利用者数(人)	目標値	3350	3350	3350	2800
		実績値	1107	1623	3103	

実 績	実績	受診件数3,103件（市内1,434件、坂祝182件、富加90件、川辺302件、七宗60件、八百津146件、白川123件、東白川18件、可児管内617件、その他241件） 休日開院数70回（市内53回、川辺5回、七宗4回、八百津4回、坂祝3回、富加1回）
	効果	休日に診療が増加する二次救急を担う救急告示病院への負担軽減 圏域住民に対する休日診療・休日歯科診療の機会提供（増加）による疾病への早期対応

評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	計画されていた各市町村による毎月の広報掲載に加え、市ではホームページでの案内を実施した。紙面とWEB両面の周知啓発を実施することで、概ね診療を必要とする圏域住民には情報として行き渡っているものと推察している。 また、WEBでの周知は急な予定変更へも迅速に対応可能となった。さらには、お盆や年末年始期間には、加茂医師会と連携し、各ホームページやすぐメール等で周知強化を行った。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	休日急患の利用者数は前年度と比較すると大幅に増加する結果となった。これは、新型コロナウイルスの感染拡大によって、受診控えをしている時期と比べて落ち着きを取り戻しつつあり、今後は年々増加傾向となると推察する。また、発熱外来患者が多かったことも増加の要因の一つである。
	実績からR05年度の事業の方向性	コロナ禍も落ち着き、衛生対策などがより徹底されてきたことなどにより、一時期顕著であった受診控えが緩やかになりつつある現状を踏まえ、救急医療の負担軽減と休日における診療機会の確保のため、引き続き本事業により継続した加茂圏域の医療体制の維持が必要と考えている。 また、令和4年度においては、本事業始まって初めて元旦（1月1日）に当番病院が割り当てられず、救急外来の利用を促したり、翌日の当番病院に患者が集中した結果となった。今後同様の事態とならないよう、医師会へ要望書を提出し、改善を求めていく。

令和4年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計		事業主体	17100000	健康こども 健康課			
大事業	61	6つのまちづくり宣言	款項目	04	衛生費	01	保健衛生費	01	保健衛生総務費
		目指す姿	政策体系に基づかないその他の事業		K P I	-	目標値	-	
中事業	01	主要な取り組み							
小事業	29	休日急患歯科診療事業（定住）	目標年度	令和6年度					

インプット	事業実施の背景にある課題	住民が安心して暮らせる環境には、充実した医療体制が必要であるが、日曜・祝日及び年末年始の日中の救急患者が救急告示病院に集中し、重症患者の受け入れが難しい状況になりつつあり、患者の救急度に応じた医療体制が圏域内で確保することが求められている。現在は、日曜・祝日及び年末年始の日中の急病に対応できる医療体制を強化し、休日基幹病院に患者が集中することのないよう、診療所の医師に協力いただき、当番制で休日診療を行っている。医療資源に限られた中で、休日等に医療機関を利用する住民が増加している。二次救急を行う救急告示病院への負担（救急利用者の増加、医療資源の減少）が増えている。				
	事業目的	(1) 対象（誰、何を対象にしていますか） 休日等における急病患者 (2) 目的（事業を行う事で、解決すべき課題がどのように改善されるのか） 休日における住民の歯科救急医療体制が確保される				
	事業概要	休日における住民の歯科救急医療体制を確保するため、加茂歯科医師会と委託契約を行い、日曜日、祝日及び年末年始について、当番医制により診療にあたる。				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	1,504	1,517	1,508	1,527	
	決算額	1,499	1,480	1,480		
年間の事業に要する時間（正職員/正職員以外）	136 / 104					

アウトプット	活動指標（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	周知回数(回)	目標値	60	60	60	60	60
		実績値	60	60	60		

アウトカム	K P I（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	利用者数(人)	目標値	230	230	230	200	200
		実績値	178	176	141		

実績	実績	受診件数141件（市内87件、坂祝14件、富加5件、川辺11件、七宗1件、八百津3件、白川2件、東白川0件、可児管内10件、その他8件） 休日開院数76回（市内64回、坂祝3回、八百津3回、川辺2回、富加2回、七宗1回、白川1回）
	効果	休日に診療が増加する二次救急を担う救急告示病院への負担軽減 圏域住民に対する休日診療・休日歯科診療の機会提供（増加）による疾病への早期対応

評価分析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	計画されていた各市町村による毎月の広報掲載に加え、市ではホームページでの案内を実施した。紙面とWEB両面の周知啓発を実施することで、概ね診療を必要とする圏域住民には情報として行き渡っているものと推察している。 また、WEBでの周知は急な予定変更へも迅速に対応可能となった。さらには、お盆や年末年始期間には、加茂医師会と連携し、各ホームページやすぐメール等で周知強化を行った。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	休日急患歯科診療の利用者は前年度と比べると減少する結果となった。利用者数はGW、お盆、年末年始等の大型連休にやや集中している傾向があるものの、その他の休日は利用者数が落ち着いている。 歯科診療に比べ、平日に診療する住民が多い傾向にあると思われる。
	実績からR05年度の事業の方向性	コロナ禍も落ち着き、衛生対策などがより徹底されてきたことなどにより、一時期顕著であった受診控えが緩やかになりつつある現状を踏まえ、救急医療の負担軽減と休日における診療機会の確保のため、引き続き本事業により継続した加茂圏域の医療体制の維持が必要と考えている。

令和4年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計	事業主体	17100000	健康こども 健康課	
大事業	61	6つのまちづくり宣言	款項目	04	衛生費	
		目指す姿	01	保健衛生費	01	保健衛生総務費
中事業	01	主要な取り組み	K P I	-	目標値	-
小事業	30	24時間電話相談窓口事業（定住）	目標年度	令和6年度		

インプット	事業実施の背景にある課題	<ul style="list-style-type: none"> ・圏域救急医療が、ひっ迫している。 ・感染症の流行期などにより休日急患診療所の受診者数が増え、医療機関の負担となっている。 ・現在のところ、子ども以外は健康面等に不安がある時に、夜間、休日等に相談できる場所がない。 ・高齢化や少子化・核家族化により、健康や介護の不安を抱えている人や、身近に育児の相談ができる相手がない人などが増えていると考えられる。 ・夜間・休日に医師不在となる地域も多く不安が大きい。 ・庁内で実施しようとすると、マンパワーもスキルも不十分。 																	
	事業目的	<p>(1) 対象（誰、何を対象にしていますか） 圏域住民</p> <p>(2) 目的（事業を行う事で、解決すべき課題がどのように改善されるのか）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜間、休日を含め24時間365日相談できる窓口ができ、安心感につながる。 ・不要不急な救急を少しでも減らし、安定した医療体制を保持する。 ・自己判断ではなく、専門的な知識を持ったスタッフに相談できる。 																	
	事業概要	24時間365日フリーダイヤルで電話による相談ができる。コールセンターには、専門スタッフ（医師、保健師、助産師、看護師、ケアマネジャー等）が常駐し、健康相談、医療相談、介護相談、認知症相談、育児相談に対応する。（専門事業者への委託）																	
	事業費（千円）	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R02</th> <th>R03</th> <th>R04</th> <th>R05</th> <th>R06</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>予算額</td> <td>3,280</td> <td>5,700</td> <td>5,700</td> <td>5,735</td> <td></td> </tr> <tr> <td>決算額</td> <td>2,871</td> <td>5,678</td> <td>5,700</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>年間の事業に要する時間（正職員/正職員以外） 137 / 104</p>		R02	R03	R04	R05	R06	予算額	3,280	5,700	5,700	5,735		決算額	2,871	5,678	5,700	
	R02	R03	R04	R05	R06														
予算額	3,280	5,700	5,700	5,735															
決算額	2,871	5,678	5,700																

アウトプット	活動指標（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	周知、PR活動回数（回）	目標値	12	96	96	96
		実績値	12	96	96	

アウトカム	K P I（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	延べ利用件数（件）	目標値	400	400	400	1200
		実績値	328	1064	1307	

実績	実績	<ul style="list-style-type: none"> ・相談件数1,307件（内訳：市内1016件、坂祝町89件、富加町43件、川辺町79件、七宗町0件、八百津町4件、白川町3件、東白川村0件、問合せ19件、不明・その他54件） ・入電件数900回（内訳：市内693件、坂祝町52件、富加町25件、川辺町61件、七宗町0件、八百津町2件、白川町2件、東白川村0件、問合せ19件、不明・その他46件）
	効果	24時間365日フリーダイヤルで相談できるため、不要不急な救急を少しでも減らし、安定した医療体制を保持。専門スタッフ（医師、看護師等）が常駐していることで、自己判断での初動を防ぐことや安心した相談窓口となっている。

評価分析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	計画されていた各市町村による毎月の広報掲載に加え、ホームページにて周知啓発を実施した。また、お盆や年末年始において別途ホームページやすぐメール等で利用を促した。利用件数が増加していることから、必要とする圏域住民には情報として行き渡っているものと推察している。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	今年度における実績では2月時点で目標値を超える利用があり、想定を超えるニーズが結果として表れた。これは、コロナ禍が続く中でできるだけ不要不急の来院を避けつつ、それでも健康や体調不良に関する不安を解消したい住民心理に沿っている結果であることや、圏域住民への周知が行き届いていること、さらには現状のニーズにあった取り組みであると考察している。一方で、市町村により利用に偏りが見受けられる点は今後の課題である。
	実績からR05年度の事業の方向性	コロナ禍において医療体制を堅持する観点と夜間、休日を含め24時間365日相談できる本事業は圏域住民へ安心感を与え、今後も相談件数は増加する傾向を踏まえると、引き続きR4年度以降も実施すべきと考えている。しかしながら、ビジョン懇談会の指摘事項として「みのかも健康ほっとダイヤル」という名称や、市町村による利用件数の偏り、さらには令和5年度からの新規事業「救急安心センター（#7119）」実施にあたり、事業継続の可否を含めた検討を行う。